

船舶事故調査報告書

平成31年2月6日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）
委員 田村 兼吉
委員 岡本 満喜子

事故種類	火災
発生日時	平成30年10月20日 16時00分ごろ
発生場所	大分県佐伯市磯崎鼻南南東方沖 蒲江港灯台から真方位085° 1.9海里（M）付近 （概位 北緯32°47.3′ 東経131°58.0′）
事故の概要	漁船裕栄丸は、磯崎鼻南南東方沖を南進中、機関室から火災が発生した。 裕栄丸は、機関室等に焼損を生じた。
事故調査の経過	平成30年10月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 裕栄丸、4.27トン OT3-45536、個人所有 9.95m（Lr）×2.58m×0.76m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数70、昭和55年7月24日
乗組員等に関する情報	船長 男性 77歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和53年3月3日 免許証交付日 平成29年2月23日 （平成35年2月11日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室、操舵室等に焼損、沈没（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風速 約6.2m/s、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、刺し網漁の目的で、平成30年10月20日15時50分ごろ佐伯市元猿山南東方の漁場に向けて佐伯市元猿漁港を出港した。 本船は、船長が、船首部で遠隔操縦装置を使用して操船し、約3～4ノットの対地速力で磯崎鼻南南東方沖を南進中、16時00分ごろ後方からバチバチバチと音がした。 船長は、主機を中立運転とし、船体中央部の後方寄りにある機関室

	<p>囲いに行き、船首側の窓から機関室の中を見たところ、機関室囲いの中が黒っぽい煙で充満していて主機が見えなかったため、元猿漁港に戻ろうと思い、主機を前進運転として同漁港の方に本船を向けたが、そのうちに主機が停止するのを認めた。</p> <p>船長は、親族に携帯電話で救助を依頼した後、右舷側に避難していたところ、機関室囲いの後方の操舵室側から煙が出てくるのを認めて危険を感じ、救命胴衣を着用して海に飛び込んだ。</p> <p>船長は、来援した付近で釣りを行っていた船舶及び親族の漁船のうち、親族の漁船に救助された後、元猿漁港に搬送された。</p> <p>本船は、別の親族の漁船が監視していたところ、海上保安庁の巡視船が来援し、消火活動を行ったものの鎮火せず、その後、沈没した。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、機関室が船体中央部の後方寄りに、燃料タンクが同室前方に配置され、上甲板上に機関室囲いが設けられており、その船首側及び両舷側に窓が取り付けられていて、内部を見ることができるようになっていた。</p> <p>機関室囲いは、甲板上右半分に床が設けられ、左半分には床がなく、機関室を見ることができるようになっており、後部に操舵輪が取り付けられていて、外部とはドアで仕切られていた。</p> <p>機関室は、そのほぼ中央部に主機が据付けられており、主機の右舷後方に12Vのバッテリーが横方向に2列で置かれており、それらは、平成29年の終わりから平成30年の初めにかけて新替えされていた。</p> <p>主機は、燃料として軽油を使用しており、本事故当時、約300ℓ残っていた。</p> <p>船長は、本事故当日、主機を始動する前に、潤滑油量、冷却清水量、ビルジの量、各部の点検等を行い、主機を始動後、潤滑油の圧力、冷却海水量等の点検を行い、異常がないことを確認した。</p> <p>本船は、船長が約30年前に本船を購入して以降、電気配線の絶縁抵抗の点検を行っていなかった。</p> <p>船長は、火災の発生を認めて港に戻ろうと主機を前進運転とした際、主機が通常に運転していたので、主機の破損による火災ではないと本事故後に思った。</p> <p>本船は、右舷船尾部に持運び式消火器が置かれていたが、船長が行くことができず、また、機関室に火災探知器が設置されていなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p>	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>なし</p>

判明した事項の解析	本船は、磯崎鼻南南東方沖を南進中、機関室から出火したものと考えられるが、本船が沈没しており、出火に至った状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、本船が、磯崎鼻南南東方沖を南進中、機関室から出火したものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小型船舶には、機関室に火災探知器を設置することが望ましい。

付図1 事故発生場所概略図

